

各 位

2018年12月18日

株式会社 山と溪谷社

<http://www.yamakei.co.jp/>

植物と薬草の知識に長けていた魔女がつくる植物図鑑
書籍『魔女のシークレット・ガーデン』刊行！

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手掛ける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：川崎深雪）は、12月17日に『魔女のシークレット・ガーデン』を刊行しました。

「魔女って、一体どんな人？」

歴史をたどってみると、魔女と呼ばれた女性たちは、薬草の知識に長けた「賢い女性」、つまり薬剤師のような民間療養師だったとされています。医学の発達する以前の昔、人々が健康で丈夫に生きるのは難しい時代、むき出しの自然と向き合っていた女性たちは、大切な家族を守るために、自然や天候を事細かに観察し、植物や動物たちから知恵を授かり、魔女になっていったそうです。

本書は、そんな魔女たちの大切にしている庭や森、原野の植物を著者の色彩豊かな手描きイラストと神話や伝説とともに紹介します。そこには、魔女たちが植物を生活に役立てる知恵と自然を大切にしているストーリーがたくさん詰まっています。

たとえば「冬のメランコリーを吹き飛ばすハーブ」、「生命と肉体に活力を与えるハーブ」などの現代にも役立つような植物はもちろん、「異界との境界にある植物」や「知恵と魔法の秘密を知る木」などの何とも魔女らしいミステリアスな植物も。

植物を好きな方や、庭づくりをしている方へのクリスマスプレゼントとしても、おすすめしたい絵本のような一冊です。

Contents

はじめに

魔女と植物

Part1 魔女の庭

魔女の庭 春夏編

冬にたまった毒を抜くハーブ



カモミール／ダンデライオン／フェンネル
愛をもたらすときめきの花
ローズ／マートル
生命と肉体に活力を与えるハーブ
ウッドラフ／ユーンサラダ
生活に役立つハーブ
ソープワート／ペニーロイヤル／ルー
パワーを上げる夏至のハーブ
マリーゴールド／ディル／マグワート
column 魔女と動物 庭編 相棒でもある黒き生き物たち

魔女の庭 秋冬編
異界との境界にある植物
バーベイン／アップル
秋のメランコリーを吹き飛ばすハーブ
セントジョンズワート／マジョラム／ボリジ
魔女の正月サーオインの夜に
マーレイン／ターニップ／ブルーム
冬の体力づくりに役立つハーブ
ローズヒップ／ブロードビーン
毒をもつ可憐な花の植物
マンドレイク／クリスマスローズ／ベラドンナ
庭の住人たち ミツバチ／カエル
魔女の庭の裏話 前編

Part2 魔女の森&原野

魔女の森&原野 春夏編
再生の樹木
バーチ／アシュ
不思議の世界にいざなう樹木
ウィロー／オルダー／ポプラ
生命と愛の讃歌
リンデン／ビーチ／ホーソーン
春の原野の滋養草
ホーステール／ソレル
荒野の薬草
ファーン／プランティン／システル
column 魔女と動物 森&原野編 悪しきコウモリとウサギ

魔女の森&原野 秋冬編

異界への境界木

ユウ/アイビー/ポムグラネイト

知恵と魔法の秘密を知る木

オーク/ヘーゼル

森が育む彩り

フィグ/ブラックベリー/マッシュルーム

不死身の霊木

ミスルトー/ホリー

豊かな実りの魔女の木

ローアン/エルダー/ブラックソーン

森&原野の住人たち 竜/妖精

魔女の庭の裏話 後編

おまけに

魔女の園芸術

参考文献

INDEX

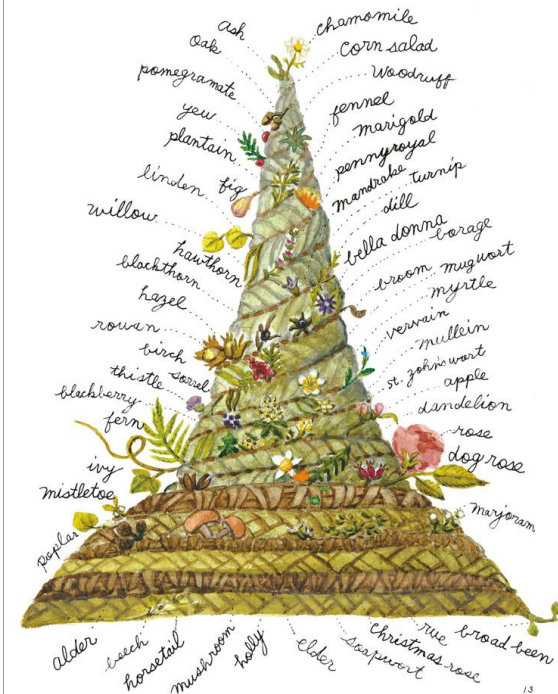
薬草いっぱいの魔女の帽子

薬草は、夜明け前から暗い森に入り、日が昇る少し前から摘みはじめます。薬草の効き目が最も高くなるのが明け方と信じられていたからです。大きな薬草カゴと夜露をしのごく大ぶりな帽子やマントは薬草採りには欠かせません。また、夜の森は邪悪な者たちがうようよ徘徊しているので、身を守るため魔女は魔除けのハーブを身体に塗ります。このような出で立ちで夜中の森に入る姿は、とても怪しかったでしょうね。自然の不思議を知り、それを身につけた魔女と呼ばれた女たちは、人々の貴重な存在であると同時に、理解しがたい不思議の世界も垣間見ることができる存在として、恐れられ、時代とともに闇の存在へと葬られていきました。

なんでも、魔女がかぶっている帽子は、薬草を編んで作ったものだと聞いたことがあります。古代ヨーロッパでは、糸を紡いだり編んだり、布を織ることは、魔法の意志を紡ぐことを意味したそうです。魔女たちが薬草の効力を祈りながら、処方とともに草を編んで帽子を作り、いかなるときにも役立てられるように常にかぶっていたとしたら。そして、ほうきに乗っていつでも駆けつけてくれるとしたら、愉快で頼もしい存在ではありませんか。

その薬草帽のはしっこをほくしていくと、どんな薬草が編み込まれているかわかるかもしれません。

さあ、それでは、帽子の薬草を少し引っぱって見てみましょう……。





魔女の森&原野
秋冬編



冷たい霧が森をおおい、厳しい北風が吹きはじめると
森はすべてを拒絶する不毛の季節に入ります。
そこでは神話や伝説の生き物たちが暗躍し、
侵入者たちを交錯の世界に引きずり込みます。



暮れゆく季節の森

光と影が完全に釣り合う「マーボンの祭り」を境に、魔女は日増しに短くなる太陽の光を惜しみつつ、きたるべき厳しい冬の準備にかかります。森の多くの樹木は葉を落とし、実を結び、湿った落ち葉のあいだからはおいしそうなキノコが顔を出して森は秋の恵みであふれます。魔女は早朝からキノコ狩りに出かけます。キノコ狩りは下ばかり見るので、ときどき方向と位置を確認しなければ道に迷ってしまいます。カゴいっぱい収穫したキノコは持ち帰ると、乾燥させて薬用と食用に分類し、食用には塩ゆでや酢漬けにしてつぼに詰め、庭の収穫物といっしょに食料庫を満たします。キノコは有毒な種類が多数あるので、分類は慎重に行わなければなりません。森で集めた木の実を乾燥させて挽いて麻袋に入れ、これからの最も厳しい季節の食料として備えます。鳥の羽毛や秋にできる植物の綿毛も大量に集めて防寒用の衣服に詰めるなど、夜具作りにも専念します。魔女の秋は多忙を極めるのです。

やがて氷と北風が森を占領すると、生き物たちは姿をひそめ、代わりに神話の主人公や伝説の生き物たちが、冷たい風の勢いとともに目覚め、静かにうごめきはじめます。人間にとって森は大変危険な場所となり、魔除け草をもたずに森へ入ることは死を意味し、入ることができても森から戻ることはできないといわれます。

古代では、人々が近寄ることができない冬の森には、人間が垣間見ることがないもうひとつの世界への入り口があって、森は神の国、死の世界へ通じ、森の木は神託を伝える導いものとしてあがめ恐れられました。

魔女は冬ごもりのこの時期、内なる自分を見つめるための心の旅路に向かいます。自身の本質を探し、見極めて、自分の可能性を時空を超えて追い求めます。

*マーボンの祭り

マーボンは古代ケルトの狩りの守護神の名で、この祭りは昼間と夜の長さが同じ秋分の日に祝います。実りを与えてくれた神に感謝し、輝かしい夏に別れを告げる魔女の8番目の祭りです。

魔女の正月サロインの夜に

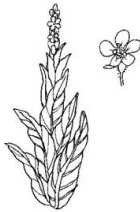
11月1日の魔女の正月は新しい火を灯すことから始まります。10月31日の真夜中、一年間使用していた火を消し、同時に新しい火を灯して新年を迎えます。魔女の正月は異界から先祖が訪れる死者の祭りでもあります。霊が迷わず我が家に来られるよう、カブをくりぬいたランタンに火を入れ丁寧に迎え慰めます。霊はそれに応じて現生の人々を祝福し再びあの世へ帰っていきます。いわゆるハロウィンの起源です。



魔女の正月サロインの夜に

マーレイン → Mullein

ピロッドモグズイカ
Verbascum thapsus L.
ゴマノハグサ科



魔女祭りのキャンドルの芯作り

2 mにもなるこの植物は、まるで燃えたいまつのように大地からすくと立ち、ある種異様な姿で人目を引きまします。ピロッドのように艶やかな銀色の綿毛におおわれた厚い大きな葉は、ロゼッタ（円形）状。花は鮮やかな黄色でオレンジ色の雄しべをもち、初夏から不定期に次々と咲きます。古くから魔除け草として知られ、魔女キルケーの魔法を封じたのはこの草であるともいわれます。この植物には収斂作用と軽い鎮静作用、去痰作用が有つて、葉と花はミルクに浸して咳、気管支炎、喘息、不眠症、下痢、皮膚疾患、抗うつなど幅広く役立ちます。大昔は茎の綿毛をこそげ取って乾燥させ、口火やキャンドルの芯に使用したため「灯芯草」「鬼婆のろうそく」の異名をもち、魔女は正月の明かりづくりに使用しました。

ターニップ → Turnip

カブ
Brassica rapa
アブラナ科



魔女祭り「サロイン」のランタン

カブは種類が多く、その大きさや色によって100種類近くもあります。歴史も古く、古代ギリシヤ人は野菜として食し、「カブはど役に立つ作物はない、その葉の芽は鳥人も好む。カブそのものは畑の土のなかに貯蔵しておき、そのあとに干すならば次の収穫期まで待つ」（『ブリニウス博物誌』より）と讀んでいます。カブは寒冷地やほかの作物があまり育たないような土地でも栽培できる栄養豊富な食材なので、洋の東西を問わず食されてきました。魔女の庭でも冬場の貴重な食料源とし、また11月の魔女の正月に不可欠なランタン作りに必要です。正月は先祖がああ世から我が家へ戻ってくるため、その道しるべとしてカブをくりぬいたランタンはとても重要。魔女の正月の火は聖なるものなのです。

ブルーム → Broom

エロシダ
Cytisus scoparius L.
マメ科

魔女のほうき草

まっすぐに伸びた長い枝は細かく分かれ、丈夫でしなやかです。最初は枝に小さな葉があり、やがてその葉は脱落して緑色の長い茎が葉の働きをします。初夏にかけて、枝いっぱい輝くようなふつくらした黄色い花を咲かせ、あたりを明るくします。古代ケルト人はこの花に太陽のエネルギーを感じ、光の神ルーフに捧げ、どんな環境にも強く明るく咲く花の特徴から、逆境においても希望と信念をもち続けることを教えられました。また、この花を粗末に扱うとあたりがあるとも伝えられます。ブルームが鬱蒼と茂る場所、そこが魔女のすみかといわれ、魔女はこの木でほうきを作ります。英名broomは訳すと「ほうき」のこと。魔女に限らずヨーロッパでは古くからほうきを作る材料として使われてきました。しなやかで丈夫で細かい枝は、まさにほうきとして使うには最適です。この木にはスバルチンという成分が含まれ、服用するとふわふわと飛行するような軽い幻覚作用を生むので、魔女の飛行と結び付けられて考えられています。実を結んだ豆のさやがやがて黒くなり、真夏にポンツと独特の音を立て破裂し、黒い種をばじき飛ばします。日照りのきつとき、さやはポンポンとほじけ、その音を魔女は夏の風物詩として楽しんだことでしょう。

*服用は決してしてはいけません。



魔女の正月サロインの夜に

魔女のほうき草

<書籍詳細>

総ページ 144 ページ (4C/1C) ・ A5 判 ・ 並

定価：1,600 円＋税

装丁画：飯島都陽子

デザイン：三上祥子 (Vaa)

<https://www.yamakei.co.jp/products/2818810140.html>

<著者プロフィール>

飯島都陽子 (いいじま・とよこ)

テキスタイルデザインの仕事を、1985 年横浜元町にハーブと魔法の専門店「グリーンサム」開業。1993 年ダ・カーポ／榊原政敏作曲「ヴァルプルギスの夜」作詞 (榊原広子共同)。1997 年倉敷チボリパーク「魔法の家」商品企画・デザイン担当。2002 年古川総合ヨーガ講師資格取得。2006～2008 年横浜「牙狼画廊」にて「魔法たちの手仕事展」立案・出品。朝日カルチャーセンター講師、講演、テレビ、雑誌取材多数。著書に『魔法の 12 ヶ月』(山と溪谷社)がある。

【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930 年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心に、国内外で山岳・自然科学・アウトドア等の分野で出版活動を展開。さらに、自然、環境、ライフスタイル、健康の分野で多くの出版物を展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社：東京都千代田区、代表取締役：唐島夏生、証券コード：東証 1 部 9479) を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「旅・鉄道」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当：宇川

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900 E-mail: info@yamakei.co.jp

<http://www.yamakei.co.jp/>